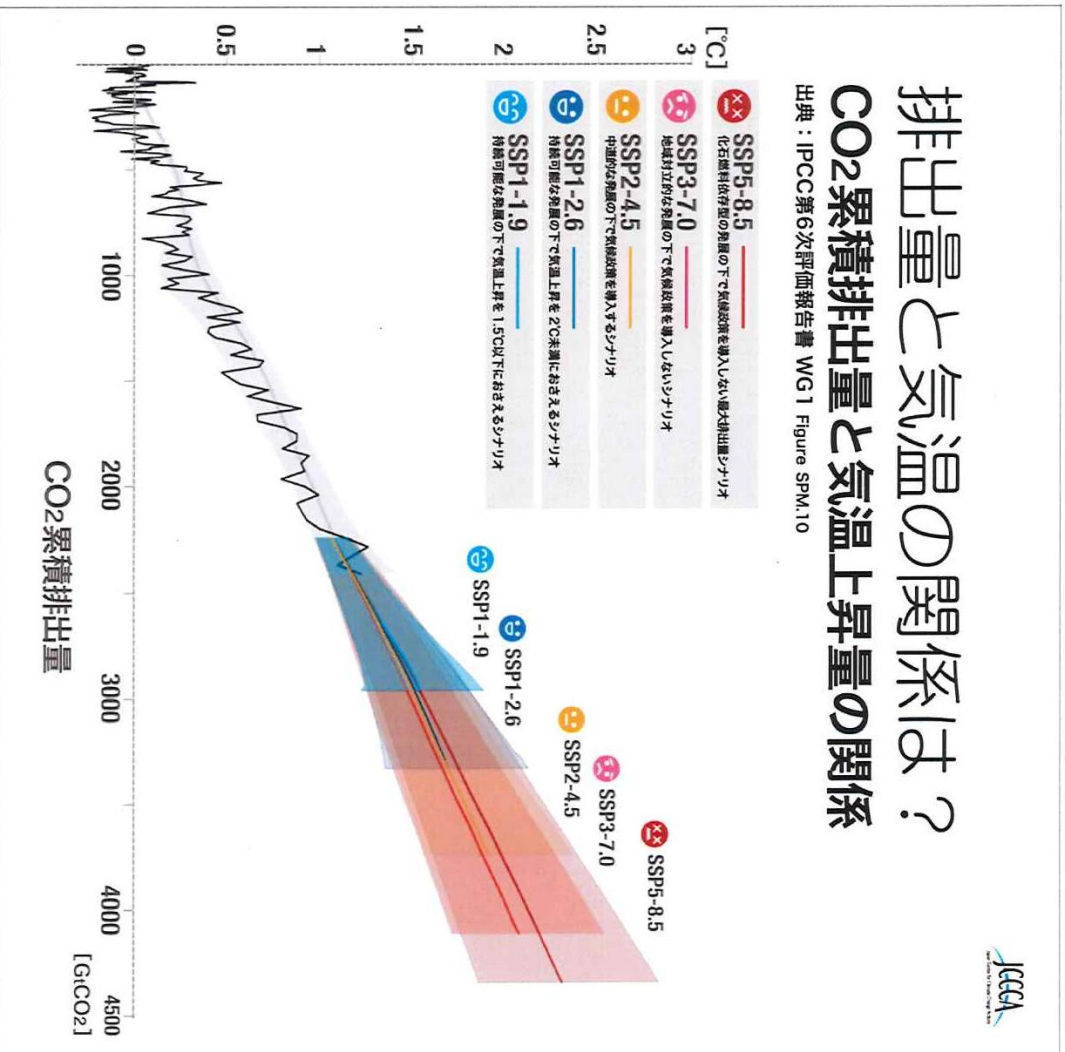


# COP26・CMA3 グラスゴー気候合意

	COP（気候変動枠組み条約締約国会議）26 カバー決定	CMA（パリ協定締約国会議）3 カバー決定
前文	気候変動は人類共通の関心事。締約国は人権、健康の権利・・・を考慮すべき	気候変動は人類共通の関心事。締約国は人権、健康の権利・・・を考慮すべき
科学と緊急性 (1)	利用可能な最良の <b>科学が重要</b> 影響は既にすべての地域で出現 この10年の取り組みが決定的に重要	利用可能な最良の <b>科学が重要</b> 影響は既にすべての地域で出現 この10年の取り組みが決定的に重要
(2)		<b>残余のカーボンバジェットの急速な減少に警戒と懸念</b>
排出削減対策 (1)	<b>2℃よりも影響がはるかに小さい1.5℃に抑える努力を決意をもって追求</b> 2030年までに2010年比45%、2050年実質ゼロにし、決定的に重要な10年の行動を加速	<b>2℃よりも影響がはるかに小さい1.5℃に抑える努力を決意をもって追求</b> 2030年までに2010年比45%、2050年実質ゼロにし、決定的に重要な10年の行動を加速
(2)		COP27で野心と実施拡大の行動計画を策定 各国に2022年末までに2030年目標強化を
(3)	<b>クリーン電力の急速な拡大</b> <b>排出削減対策（CCUS付帯）の講じられていない石炭火力発電のフェーズダウン（逡減）</b>	<b>クリーン電力の急速な拡大</b> <b>排出削減対策（CCUS付帯）の講じられていない石炭火力発電のフェーズダウン（逡減）</b>

1-9 CO<sub>2</sub>累積排出量と気温上昇量の関係CO<sub>2</sub>累積排出量と気温上昇量の関係

2022年5月17日 参議院環境委員会 日本共産党 山下芳生  
 出典 全国地球温暖化防止活動推進センター (JCCCA) ホームページより

# 1.5°Cに抑えるための残余のカーボンバジェット（日本）は約6年分 世界で石炭火力の早期廃止が必要とされている根拠

	世界	世界	日本(人口比)	日本(人口比)
	1.5°C内に	2.0°C内に	1.5°C内に	2.0°C内に
67%の確率	400GtCO2	1150GtCO2	6.43GtCO2	18.49GtCO2
50%の確率	500GtCO2	1350GtCO2	8.04Gt	21.7 GtCO2

途上国と先進国間での公平な分配（一人当たり？）  
国内での世代間公平 2021.3.24 ドイツ憲法裁判所決定  
2030年目標は不公正 気候変動法改正し、引き上げ

- 1.5°C目標下で、人口割での日本の残余のカーボンバジェット 64億トン
- 日本の年間CO2排出量（2019年）  
総CO2排出量 約11億トン エネルギー起源CO2排出量年約10億トン  
**石炭火力からの排出量 2億6000万トン**
- 日本の2030年目標と石炭 電力供給の19% CO2排出量 1億5000万トン  
原子力（20～22%）不足分を石炭で補った場合 3億トンにも
- 残余のカーボンバジェットを石炭火力で浪費できない！

石炭火力は天然  
ガス火力の2倍  
のCO2.大気汚染  
物質も排出

## ＜プレスリリース＞

「GENESIS 松島計画」への環境大臣意見は旧式石炭火力の延命の啓蒙だ  
～気候危機に向き合うなら「是認できない」となるべきだ～

2021年12月16日

特定非営利活動法人気候ネットワーク  
代表 浅岡美恵

本日12月16日、環境省は電源開発株式会社による GENESIS 松島計画(以下「本計画」)に対する環境大臣意見を公表した。今般示された環境大臣意見はカーボニュートラル宣言、2030年の温室効果ガス削減目標の引き上げ及びグラスゴー気候合意の採択後、初めて出されたものである。環境大臣は、今求められる気候変動対策や国際社会の動向と不整合で、わが国の不十分な削減目標とも整合しない本計画に対して「是認できない」と厳しく指摘すべきであったが、本意見は事実上容認するもので極めて遺憾である。

12月9日に当団体がプレスリリースにて指摘したように、本計画は、稼働から40年が経過した、早期のフェーズアウトが求められている電源開発・松島火力発電所2号機(超臨界圧・50万kW)にガス化発電設備を付加して老朽火力を期限を定めず延命するものであり、時代に逆行するものである。

そもそも、パリ協定のもとの排出量の削減が求められているのであり、CO2 排出原単位や省エネ法におけるエネルギー効率及び電力業界の自主的取り組みの枠組みは、日本の2030年目標の確実な達成を担保するものではない。また、2030年までに引き上げられた2013年比46%削減に対応する対策の具体化もなく、電力業界の自主的枠組みの改定もいまだなされていない。それにもかかわらず、大臣意見では、電源開発が示した具体性を欠く「カーボニュートル燃料の導入」、「CCUS/カーボブリサイクルの導入」といった構想に対して、実質的な期限を定めず可能な限り早期に導入の検討を進めることを求めるにとどまる。そもそも CCS は、1970年代から多額の研究開発予算を費やしているにも関わらず現時点で国内の実証実験がようやく終わったにすぎない、国内には適地が乏しく、コストも高く、実現可能性を欠く構想である。また、本件計画は石炭のガス化・混焼に製造過程で CO2 排出を伴う水素・アンモニアを燃料とするものであるが、具体的な排出量の検討もされていない。こうしたもとの意見は、CCUS の導入時期を明示させることや、アンモニア混焼による排出削減の具体的内容を明確にすることを求めることなく、単に検討を求めるにとどまったもので、同様の不確かな「対策」を通じて事業者が日本全国に立地する数多くの非効率石炭火力を延命させ、日本の脱炭素化を遅らせ気候危機を一層深刻化させることに環境省としてコーサインを出したも同然であり、歴史的に禍根を残すものと言わざるを得ない。

今日、パリ協定及びグラスゴー気候合意のもとで 2030年の温室効果ガス削減目標の引き上げが求められているのであり、既設及び建設中の石炭火力発電所のフェーズアウトに向けて根本的な見直しが必要である。政府は、石炭火力発電事業者に対して、石炭火力の延命ではなく早期廃止に向けた実効的な方策の構築を急ぐべきである。

お問い合わせ: 特定非営利活動法人 気候ネットワーク (<https://www.kikonet.org>)

【東京事務所】〒102-0082 東京都千代田区一番町9-7 一番町村上ビル6F

TEL: 03-3263-9210、FAX: 03-3263-9463、E-mail: [tokyo@kikonet.org](mailto:tokyo@kikonet.org)

【京都事務所】〒604-8124 京都府京都市中京区帯屋町574 番地高倉ビル305

TEL: 075-254-1011、FAX: 075-254-1012、E-mail: [kyoto@kikonet.org](mailto:kyoto@kikonet.org)

# ハチの干潟 命の原風景



かつて島だった山を切り開いた河口の先に広がるハチの干潟。左側の突き出した土地にLNG火電の計画がある



干潟は宅地から山に隔てられ、静けさが漂う。学生たちがカブトガニの生息状況を継続的に調べている (渡部公揮)

## 吳・東広島

竹原市の賀茂川河口に広がる「ハチの干潟」は、希少な生き物が生息することで知られ、環境省の「生物多様性の観点から重要度の高い湿地」にも選ばれている。近くで液化天然ガス(LNG)火力発電所の建設計画が持ち上がり、影響を懸念する声も上る中、現地を歩いてその自然に触れてみた。

### 竹原の河口 希少な70種



カブトガニ



チワラスボ

ハチの干潟 18世紀に賀茂川の流路を変える工事で現在の河口が開削され、地先に砂泥が堆積した。名前は干潟上の岩礁「ハチ岩」に由来する。最大面積は約22㍍。2005年末に干潟沖で漁場拡大を目的とした開発

クリック

計画が浮上したが、市民グループの反対もありストップした。「JBGエナジー(東京)によるLNG火電計画は、干潟の西側に突き出した土地に発電所を設け、海上に棧橋や貯蔵施設の整備も予定する。



思いが募った。

昨年12月中旬、広島大竹原ステーション(同市)で学ぶ大学院生や学生たちの案内で、干潮時に合わせて干潟へ向かった。河口付近の橋のもとから川べりを伝い、5分ほど南進して海側へ抜けると、川からの流れを挟んで砂泥地が広がる。学生たちと泥を目を凝らす。「いたー」。声の方に駆け寄ると、泥をほったような跡があり、拭くと黒くいかつい姿が見えた。カブトガニだ。尾剣を除いた体長が4センチほどの幼体で、4歳程度という。腹

を曲げて尾を立てるさまは、小さくても「生きた化石」の名にふさわしい迫力がある。泥の中をうねる別の影にも気づいた。チワラスボと呼ばれるハゼの仲間。ウナギのような外見で、巣穴を掘って隠れる習性がある。

約1時間で見つけた2種は、いずれも絶滅危惧種。一方で、環境省のレッドリストで指定された魚や貝などが約70種確認されているという。干潟でカブトガニの調査をしている広島大大学院の大塚攻教授(62)は「生物の宝庫。瀬戸内海の内原風景がこれほど残る場所は珍しい」と話す。多くの命を包み込む豊潤な干潟。子どもたちの環境教育の場にもなっており、次世代へ大切に引き継ぎたいという

吳 支 社 ☎0822(2)5151 FAX(2)4877  
 東広島総局 ☎0822(2)2000 FAX(2)0124  
 竹原支局 ☎0824(2)2200 FAX(2)0027  
 江田島支局 ☎0824(4)2013 FAX(4)00008

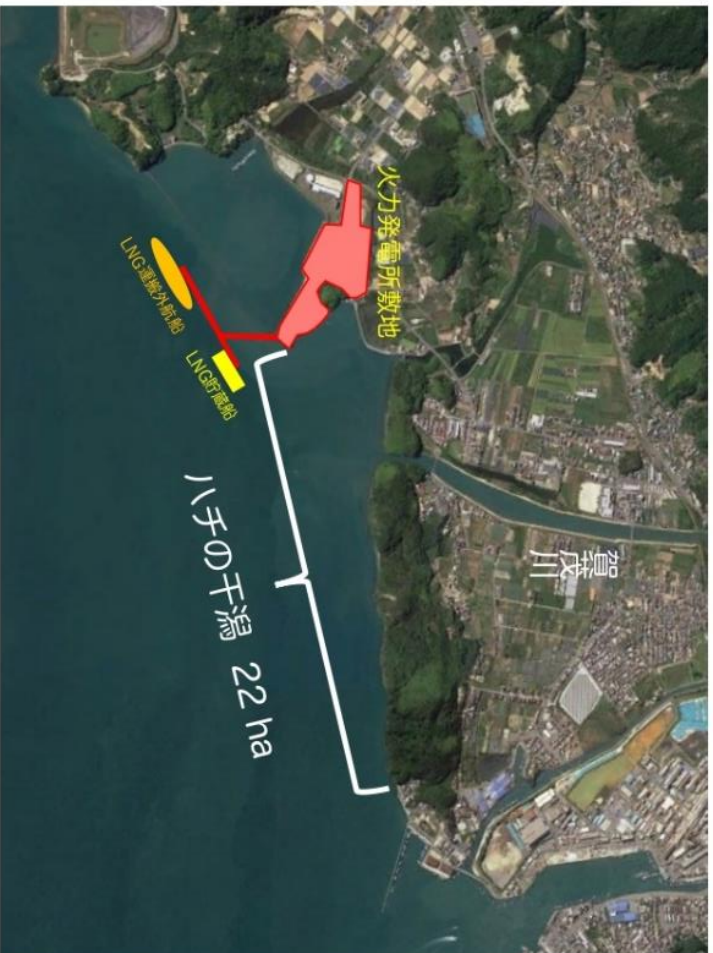


写真3 ハチの干潟とLNG火力発電所建設予定地（Google Earthより作成）。棧橋（赤）の長さは500 m、LNG運搬外航船は250 × 50 m、LNG貯蔵船は120 × 50 mのサイズで描画（竹原市が2021年5月6日に竹原市下野町で配布した資料等に基づいて作図）。



写真4 ハチの干潟とLNG火力発電所建設予定地（国土地理院地図・空中写真閲覧サービスより空中写真を入手し、作成）。棧橋、LNG運搬外航船、LNG貯蔵船が賀茂川から流出する河川水の流心近くに位置することがわかる。